

【事業実績】

1. 観光分野と連携した環境整備・情報発信

ウェブサイト「Izumo Heritage Museums」の多言語化



昨年作成した英語版ウェブサイトについて、フランス語・韓国語・中文繁体・中文簡体版をそれぞれ作成した。日本語で読みたいという感想を多くいただいたので、日本語ページも追加した。紹介している六つの館からはそれぞれ、小規模館が多言語化に対応するのは大変なので、ありがたいという声をいただいた。また、各館のイメージ動画を撮影し、公開した。

URL <http://izumomuseums.org>

和食プログラムの実施

ワークショップ「江戸のおもてなし料理」の成果を活用した「和食体験プログラム」と、「和食体験プログラム」を組み込んだ2泊3日のファムトリップ（島根県観光振興課、出雲観光協会による助成）をおこなった。「和食体験プログラム」は、献立が記録された文書の内容や時代背景、準備で分かった江戸時代の食文化についての解説なども織り込んだ事で、特に県外からの参加者に好評だった。



今後は、島根県や出雲市の観光課などと連携しながら、新たな観光資源として活用出来るよう企画を練り上げていく。

2. アウトリーチ事業

連続講座「古典を楽しむ～歌仙を学ぶ～」(全4回)、



所蔵資料からテーマを絞るまでが一苦労ではあるが、4年目となりリピーターも増え、定着してきている。

《アンケートより》

- ・和歌史の面白さが印象に残った。分かりやすい講座なので続けて欲しい
- ・三十六歌仙和歌について時代経過の流れがとても分かりやすかった
- ・資料が充実していて親切
- ・楽しかった
- ・珍しいテーマの講座で知的な刺激を受けた

「大社 能を知る集い～能と狂言の世界 事始めから未来までⅡ～」



能楽を身近に感じてもらおうというワークショップだが、毎年、古事記や日本書紀、神話、民俗芸能、日本語などさまざまなジャンルに話題が拡がり、一定のリピーターを得ている。

《アンケートより》

- ・毎回新しい何かを知ることができるので、わくわくする
- ・五感を刺激される楽しい講座だった。内容も理解しやすい
- ・気楽に能の世界に触れたいという思いを強く持った
- ・能・狂言に初めて接したが、番組構成のルールなどの解説もあり、説明がとてもわかりやすかった
- ・日本古来の文化を正しく伝える事の大切さを感じた

「能と狂言を体験しよう！」



大社町内の小学校へ出向き、六年生を対象におこなうワークショップ。プロの能楽師の声や所作を体で感じ、知って欲しいと考えておこなっている。この講座の経験を成果発表会で発表したいという学校もあり、小学校の教育においても活用出来る企画として受け入れられているものと評価できる。

「江戸のおもてなし料理」

手銭家に伝来する文書に残る献立から料理を再現調理し、伝来する食器で試食する。江戸時代の大社の生活や文化を知っていただくことを目的におこなっている。



《アンケートより》

- ・器が美しい
- ・チシャトウ、氷こんにやくは初めて食べた。
- ・細かい所まで見ることができ、教えてもらえて良かった
- ・江戸時代にこれだけのごちそうがあったことに感動した
- ・日本料理の奥深さを知る良い機会になった

「古文書解説講座」(全12回)



(公財) 図書館振興財団の助成を受けておこなった、初心者にも古文書を読めるようになってもらうことを目的とした講座。テキストは、手銭家が伊能忠敬の宿になった時のさまざまな記録(約30点)から選んだ。解説の成果は、クラウド型デジタルアーカイブシステムADECAC上で公開する。参加者の強い希望により、次年度から自主講座として継続されることになった。

《アンケートより》

- ・わからなかった事がわかっていく楽しさを味わうことができた
- ・回を重ねるごとに楽しくなった
- ・高校の古文がこういう授業だったら居眠りしなかったと思う
- ・伊能忠敬の測量に対して地方がどのように準備、対応したかがよくわかった

3. 他機関との連携活動

館外展示「手銭家蔵書から見る出雲の文芸—その二—」



プロジェクトや手銭記念館の取り組みを知ってもらうため、手銭記念館所蔵資料を島根県立古代出雲歴史博物館、島根大学附属図書館で展示する取り組み。

《島大図書館アンケートより》

- ・今後も様々な資料を発掘、紹介してほしい
- ・地元の資料が保存されているのは嬉しい
- ・文芸資料の多様さがよくわかる展示だった。人名録などどう使っていたかがわかるのもおもしろかった
- ・地域における俳句・和歌の広まりは学ぶ機会が少ないのでとても新鮮で、勉強になった

シンポジウム『資料から再発見する江戸時代の底力 —手銭家資料(文書・古典籍・美術)を繋ぎ活かす取り組み—』

十年あまり続けてきた手銭家所蔵資料の調査研究からは、これまでの近世文学史では知られていなかった地方の文芸活動についてのさまざまな発見や知見がうまれている。これらの研究成果を発表するシンポジウムをおこなった。



《アンケートより》

- ・島根の地にも風流を解する人物がいたことに大変安堵した。(30代・社会人)
- ・研究の進展を期待している。(80代以上人)
- ・デジタル化により世界に情報が広がり地域の価値が向上する。アーカイブする事の意義が感じられた。(60代・社会人)
- ・専門分野外の話を知ることが重要だとあらためて認識した。(50代・島根大学教職員)
- ・江戸時代の生活・文化のイメージができた。(40代・社会人)